幼児教育センター運営事業検討報告書

社会福祉法人 くにたち子どもの夢・未来事業団

目次

１．設置目的 1

２．方針 2

＜コンセプト＞ 2

＜方針１＞ 3

＜方針２＞ 3

＜方針３＞ 4

＜幼児教育センターが担う主な役割＞ 5

３．施設計画の考え方 6

（１）施設の規模・開館予定　　※矢川複合公共施設基本設計時点の情報です 6

（２）設備の特徴と環境設定 7

４．導入機能と提供サービス 8

（１）機能の柱 8

（２）事業展開と重点プログラム 13

（３）子ども家庭支援センターひろばなどの関係機関との連携 23

（４）矢川プラス全体との連携 24

（５）施設利用とプログラムのタイムスケジュール（例） 25

参考資料１ 28

参考資料２ 29

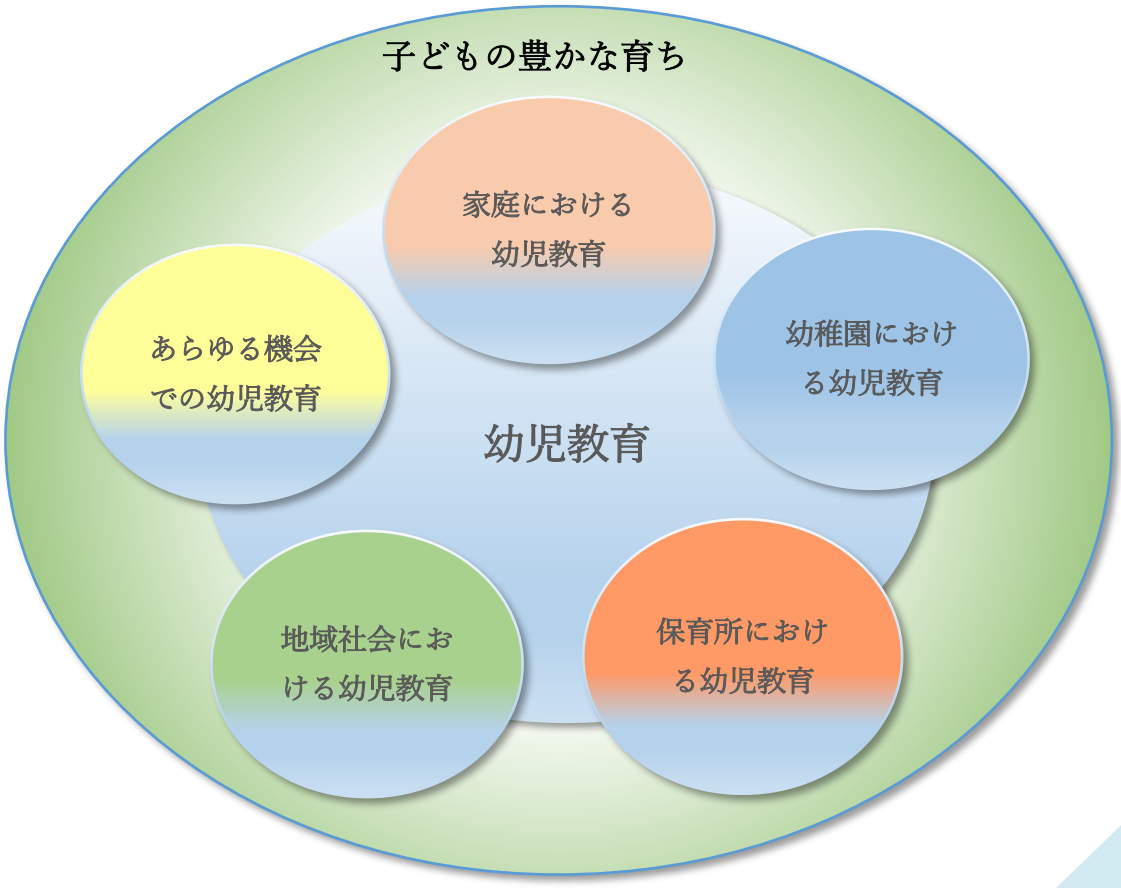
１．設置目的

幼児教育センターは、幼児教育や子育て支援の新たな仕組みづくりの中枢的な役割を担います。国立市、社会福祉法人くにたち子どもの夢・未来事業団、市内小学校、市内私立幼稚園や公私立保育園等の関係機関と緊密に連携する中、国立市全体の幼児教育の水準の向上に寄与するとともに、子どもの豊かな育ちに繋がるよう子育て家庭の支援を進めることを目的とします。

また、まち全体で、子どもと大人の双方が創造性を発揮し、探究的な活動を通して共に学び、育ち合い、関わりをつくる幼児教育の環境づくりを進め、子どもたちが、将来の夢の実現に向かって生きる力をつけられるよう、地域ぐるみ、まちぐるみで子どもを育てる環境づくりを進めます。

本書で示す幼児教育の考え方

ここでいう幼児教育は、乳幼児に対する教育を意味し、乳幼児が生活する全ての場において行われる教育を総称したものとします。具体的には、幼稚園における教育、保育所等における教育、家庭における教育、地域社会における教育やあらゆる機会での教育を含み、広がりをもった概念とします。



２．方針

＜コンセプト＞

未来につなぐ子育ての支え合い

◆解説

子どもと大人の双方が創造性を発揮し、探究的な活動を通して共に学び、育ち合い、関わりをつくる幼児教育の環境づくりを進め、子どもたちが、将来の夢の実現に向かって生きる力をつけられるよう、**持続可能で未来につなぐひとの支え合い**により、地域ぐるみ、まちぐるみで子どもを育てる環境づくりに取り組みます。

＜方針１＞

○市の幼児教育の推進・振興の新たな仕組み・多様な子育て環境づくりの中核となる幼児教育センターとして**市全体の幼児教育水準の向上に寄与するとともに、子どもの豊かな育ちに繋がる支援を進めます。**

◆解説

幼児教育センターは、幼児教育や子育て支援の新たな仕組みづくりの中枢的な役割を担い、国立市、社会福祉法人くにたち子どもの夢・未来事業団、市内小学校、市内私立幼稚園や公私立保育園等の関係機関と緊密に連携する中、国立市全体の幼児教育の水準の向上に寄与するとともに、子どもの豊かな育ちに繋がる支援を進めます。

特に「非認知スキル」に着目し、子どもが将来にわたり自分の夢を実現するための力として、問題を解決する力、やりたいことを実現するために物事に粘り強く取り組む力をつけ、そして何よりももっと向上したいという気持ちが、子どもの自信につながり、多くの貴重な経験が重ねられるような取組やその大切さを伝えていきます。

＜方針２＞

○ソーシャル・インクルージョンの理念の下、個性を認め合い、発達段階に応じた幼児教育により、自分らしさを誇れる子どもたちを育てます。

◆解説

子どもは生まれながらにして違い、誰一人同じではありません。一人一人に個性があり、考えることも違い、魅力があり、そしてそこにいろいろな可能性があります。乳幼児期からいろいろな力が生まれますが、その生まれ方は、一人一人違い、また、力を出せずに眠っている子どももいるでしょう。

こうしたすべての子どもたちが、それぞれの発達の段階において、その子らしさを大切にしながら、みんなで包み込むようなお互いを認め合う関係性の中で子どもが育つ環境づくりを考えます。

そして子どもたちは、「友だちが好き」「好きなものがある」「好きな場所がある」「好きな色・音・におい」など、そして何よりも「自分が好き」の「好き」を増やし、子ども自らが生きていることの素晴らしさを感じ、自分らしく毎日が楽しく生活が送れる子どもたちを育てられるよう、みんなで支えていく取組を進めます。

＜方針３＞

○まちぐるみで子どもたちの個性や感性を生かす幼児教育の環境づくりに取り組みます

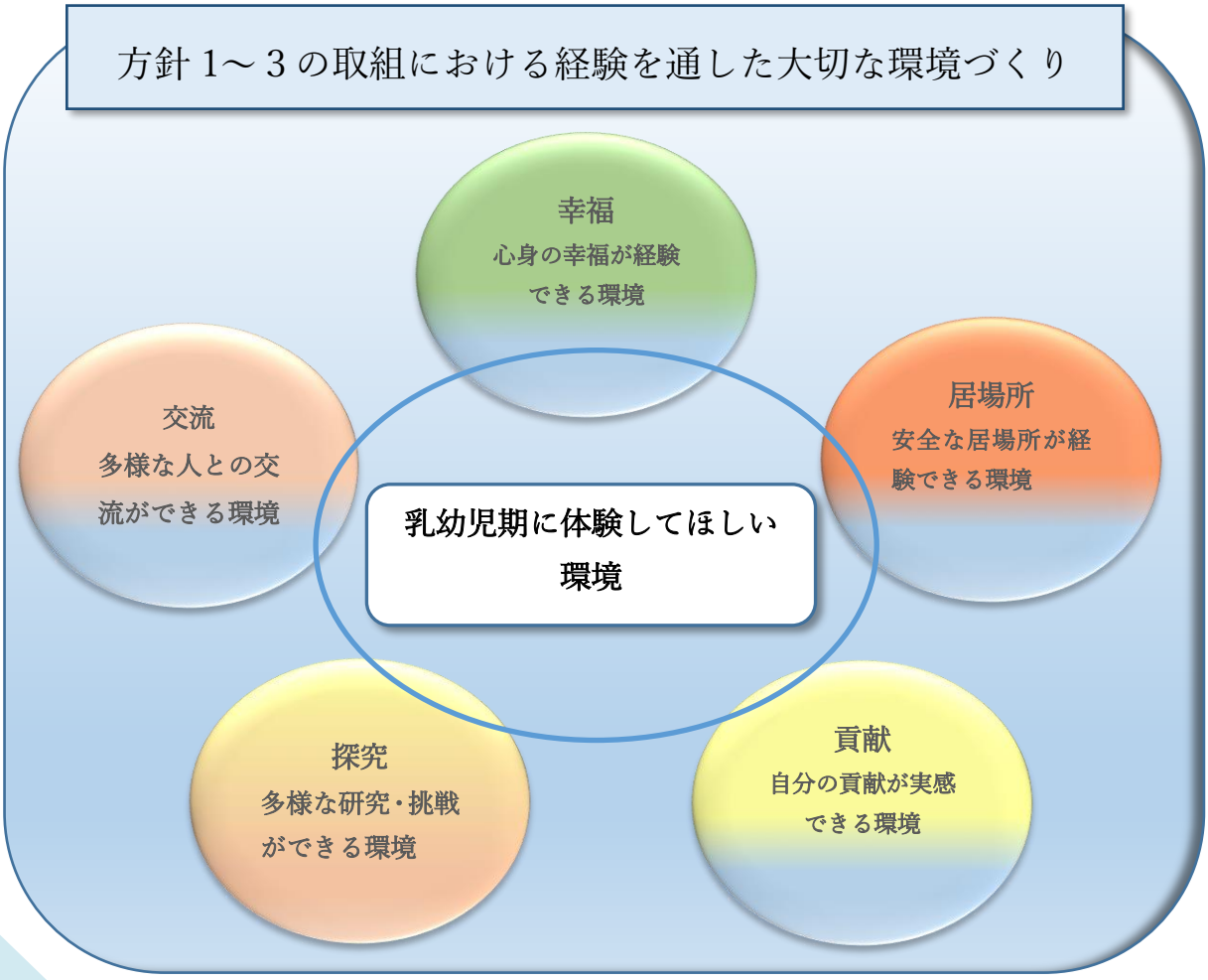
◆解説

子どもたちのもっている力は無限大で、それぞれの個性や感性が共感しあうことにより多様なものが創造できる可能性があります。子どもたちが、将来の大きな障壁に立ちはだかった場合には、こうした創造する力、解決する力が必要になります。

乳幼児期から「意欲的に取り組むこと（遊ぶこと）」「夢中になること」を繰り返すことより、いろいろな発見や創造があり、さらに「友だちと共感すること」のなかでその世界が広がります。

こうした世界を広げていくためにも、いろいろな大人たちが関わり、大人自身も学びながら、自らの世界を広げていくことに繋がります。

まちぐるみで取り組むことで、まち全体もエネルギーをもらい、元気になります。



＜幼児教育センターが担う主な役割＞

【子どもの育ちを応援する場と機会】

◆乳幼児期からの大人との愛着や信頼関係を構築できる場

◆子どもの意欲的な遊びを通した学びの力を増やし、子どもの未来に繋げる場

◆様々な人との出会いのなかで、子どもたちの発見と共感につながる体験と世界を広げる場

◆子どもが大人と関わり、楽しく学び・創造できる場

◆子育て家庭が地域に温かく支えられながら気軽に集える場

【支援の在り方】

■多世代の関わりによる福祉的アプローチと乳幼児教育環境の向上（多世代子育てステーション機能）

■幼児教育と子育て支援の一体的取組

■子育て家庭のニーズに丁寧に応答し、切れ目ない支援のレベルアップ

３．施設計画の考え方

（１）施設の規模・開館予定　　※矢川複合公共施設基本設計時点の情報です

◆施設面積	幼児教育センター　約１１２㎡ ※その他事業の共有可能な場所 子育てひろば約 192 ㎡ とおり土間約 186 ㎡・ホール約 207 ㎡ 多目的ルーム　約 182 ㎡ 多目的ひろば（屋外スペース）約 956 ㎡
◆開 館 日	休館日（市検討中）
◆開館時間	午前～午後（市検討中）

（2）設備の特徴と環境設定

幼児教育センターは、利用する親子が安心してくつろげる雰囲気の施設の中で、遊びを通した学びの環境を整えます。また、乳幼児期の子どもの五感の発達につながる設備やおもちゃなどが、展開する事業とのつながりをもつように環境を整えます。特に、利用者が心地よく思え、自然へのやさしさを感じる空間づくりを行います。

そして、子育て支援を展開する子育て支援センターひろばと連動した環境を整えます。子ども家庭支援センターひろばは、比較的に未就学児の低年齢のお子さまと保護者が主な利用者と想定しますが、幼児教育センターひろばでは、もう少し動きのあるお子さまに合わせ、五感の発達に繋がる遊具やおもちゃのあるひろば環境を考えます。それぞれに「静」と「動」、「音」と「光」、「色」などの視点を大切にし、揺れ遊びや知育玩具などがあり、様々な発達段階の子どもの興味や好奇心に繋がるひろばを目指します。

また、親子の学びと暮らしの支えになる魅力ある絵本や雑誌・書籍を揃えます。

こうした子育て家庭の利用と合わせ、子育て支援・幼児教育を支える人達にとっても使いやすい学びと支援の環境づくりを行います。

４．導入機能と提供サービス

（１）機能の柱

幼児教育センターは、①「実践」として保護者の学びと交流を通して子どもの育ちを支援する、②「研究・研修」の機会、③「連携」、④「啓発・推進事業」、⑤「発達支援」の５つからなる機能の柱をたて取組を進めます。

①　保護者の学びと子育て支援　―子育てひろば“ここすき”―

◆未就園児家庭を対象とした子育てひろばにおいて、保護者の学びと交流を通した子どもの育ちを支援します。

a．保護者の学びと子育てを支援します

子育てひろば「ここすき」では、０・１・２歳の子どもを対象に交流を通した親子の学びの機会を作ります。子どもたちが自信を持ち、ともだちと共感し合いながら力強く成長していけるよう働きかけと見守り方や、日常の育児の基本的なスキルなど保護者に寄り添いながら学ぶ機会をつくります。

保護者は子どもの学びから距離を取って参加し、子どもの行動に対する理解を深め、一人ひとりの子どもの成長を保育者と考えていきます。こうした機会と家庭教育との連続性の中で、子育ての安心に繋げていきます。

また、子どもの育ちにとって大切な「非認知スキル」を伸ばす視点をもち、ひろば事業を進めます。

b．実践・研究の成果を保育・幼児教育現場に活かします

子育てひろば「ここすき」での実践により得られた成果の研究・報告等を行い、幼児教育環境の向上に繋げます。また、３歳児以降の就園時にスムーズな環境適応を支援します。

②　研究・研修

◆市内全体の幼児教育環境の向上につながる研究と、職員の専門性を高める研修の機会により、市内の保育・幼児教育施設の専門職の資質及び幼児教育環境の向上を目指します。

ａ．幼児教育の相互研究の機会

国立市内の幼稚園・保育園・認定こども園や大学等の関係機関や研究者等全体で、幼児教育に関する個別の課題・場面をテーマとして深く掘り下げて共に研究し学び合う機会を作り、幼児教育環境の向上の取組を進めます。

また、市内の保育・幼児教育施設や事業団が運営する保育園の取組を広く共有し、市全体の研究・研修にフィードバックします。

ｂ．専門性や資質向上のために

幼児教育の基礎について学ぶ研修を始め、経験や職層に応じて修得すべき研修を体系的に計画し、職員の資質向上を図ります。特に、制度化され保育現場の実践につながるようキャリアアップ研修などの取り組みを一層進めます。

③　連携

◆保育・幼児教育の取り組みを市内全体で支援する仕組みを進めます。

a．関係者が共に学び合うために

保育・幼児教育から就学における切れ目ない支援を進めるための機会と場づくりを進めます。遊びや体験を通じての「学び」から教科による「学び」へと変わり大きな転換期を迎える子どもにとってこの大きな環境の変化など、幼稚園・保育園等と小学校関係者が互いに学び合い研究する機会をつくります。

b．環境の変化についていきづらい子どもの不安に寄り添うために

環境の変化についていきづらい子どもを抱え、不安を抱える保護者への支援につながる取組を多くの大人や関係機関などの関わりのなかで進めます。

④　啓発・推進

◆まちぐるみで子どもたちのそれぞれの個性や感性を生かす幼児教育の環境づくりを広く進めるための啓発を行います。

a．幼児教育の啓発・推進

子どもの育ちに大切な非認知スキルの視点をもつ幼児教育の取り組みを、国立市全体で連携し高められるように、あらゆる機会やツールを活用し啓発を進めます。

b．まちぐるみで幼児教育の環境づくり

子育て家庭を取り巻く地域住民と共に幼児教育の理解を深め、まちぐるみで子どもの育ちを考える機会をつくり、また、市内の様々な場所や場面において幼児教育に触れる、参加する、対話する機会を設けて気運醸成を図ります。

⑤　発達支援

ソーシャル・インクルージョンの理念のもと、個性を認め合い、発達段階に応じた幼児教育により、自分らしさを誇れる子どもたちの育ちを応援します。

a．支援の仕組みづくり

子どもの育ちには様々な姿があり、一人ひとりの持っている感性や可能性など計り知れないものであり、それぞれの子どもが、個々の発達段階に応じた幼児教育を受ける環境を整えることが大切です。

こうした環境を整えるにあたっては、これまで支援を行ってきた専門機関や専門職だけのマンパワーでは追いつかないといった課題があります。

マンパワーについては、親や高齢者、若者、あるいは地域や商業・農業者などの職業者の誰もが持っている当たり前の力、でも子育てにとっては貴重なアドバイスなどを持ちより自らも自信がつき発見をする場づくりを進めるなかで、子どもの育ちを支える「多世代子育てステーション機能」を目指します。

（２）事業展開と重点プログラム

幼児教育センターの５つの機能を関連性のなかで効果的に進めるため、以下の４つの事業展開と重点プログラムを実施します。また、国立の子どもにとって新たに必要な子育て支援や保育・教育の課題については、その解決に向けて積極的に取り組んでいきます。

１．子育てと学びの輪を広げる
「ここすきひろば」事業

２．あらゆる世代と子育て家庭が交流する支援の輪
「つながるカフェ事業」と情報発信事業

３．学びの支援の輪を広げる
研究・研修・講座・ワークッショップ事業

４．豊かな育ちの学びを進めるための
企業・地域団体とのコラボレーション支援

５．国立の子どもにとって必要な子育て支援や
保育・教育の課題解決に積極的に取り組む

それらを一体的に進めるための繋がる３つのコンセプトをもちます。

①幼児教育・子育て支援の集いが継続する場と機会

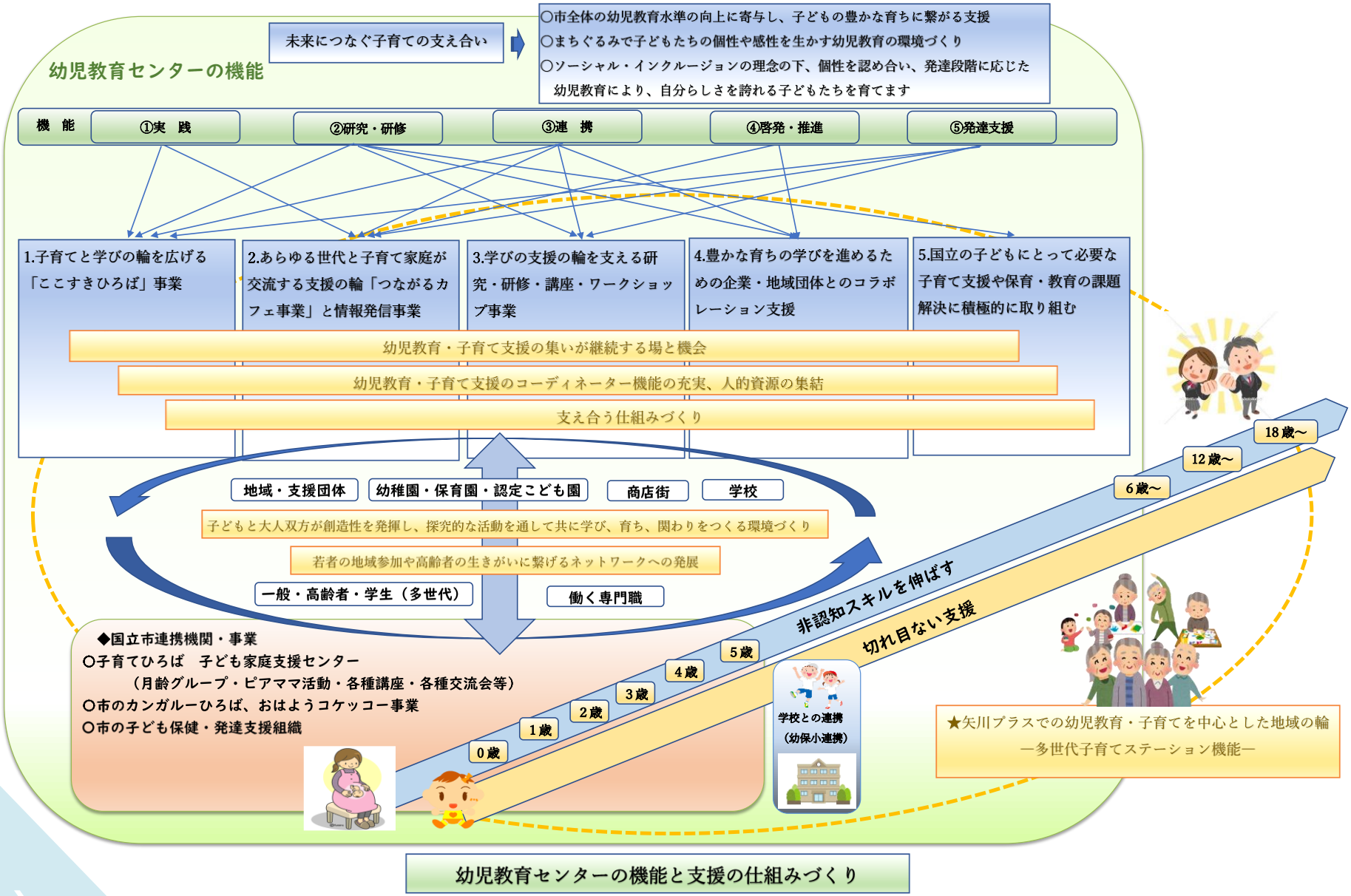
②幼児教育・子育て支援のコーディネーター機能の充実、人的資源の集結

③支え合う仕組みづくり

また、地域・支援団体、幼稚園・保育園・認定こども園、商店街、学校、一般・高齢者・学生（多世代）、働く専門職などあらゆる人々の繋がりもち取り組むことにより、以下の目標の達成も目指します。

①子どもと大人双方が創造性を発揮し、探究的な活動を通して共に学び、育ち、関わりをつくる環境づくり

②若者の地域参加や高齢者の生きがいに繋げるネットワークへの発展



幼児教育センターの機能と支援の仕組みづくり

【４つの事業展開】

１．子育てと学びの輪を広げる「ここすきひろば」事業

■事業の目的：未就園児家庭を対象とした子育てひろばにおいて、子どもの非認知スキルの視点を大切に、保護者が育児と子どもとの関わりを学び、様々な交流を通した子どもの育ちに寄り添い支援します。
■事業が果たす主な機能：①実践、②研究・研修、③連携、⑤発達支援

○ここすきひろば事業　【通所型】

◆これまでのここすきひろば事業　※巻末資料を参考

1 歳児対象　週 2 回×2 か月半で 21 回程度実施
1 クラス 10 人×2 クラス×年 3 クール　年間合計 60 組ほどが参加
卒業後は、同窓会、応募定員を超え参加できない家庭について補完する「体験ここすき」を実施
【基本カリュキュラム】
登所→朝の集まり→主活動→自由遊び・親との懇談→帰りの集まり

◆センター事業の展開

これまでのここすき事業の成果の振り返りと検証を行い、新たな視点も取り入れながら、保護者の育児と子どもの関わりの学びの場となる、より良い機会づくりを目指します。

◆センター事業を展開するにあたり大切にしたい視点

○子どもの能力の向上に注目するのではなく、子どもの育ちにとって大切な非認知スキルを伸ばす視点で、子ども一人一人が生まれながらにもっている力、ともすれば気づかれずに眠ってしまう大切な力を引き出せるよう、そして、子ども自らが学びに向かって力がつけられるよう、寄り添いながら支援をします。

○ここすきひろばでの寄り添いの支援が、限られた時間と期間に留まらないよう、継続と支援の輪が広がり、何かあってもいつでも相談できる「第２の家庭」のような場となるような居場所づくりを目指します。

○こすきひろばなど実践を通して、これからの時代にふさわしい「新しい保育モデル」の探究をします。

【これまでの振り返りから考えるプログラム例】

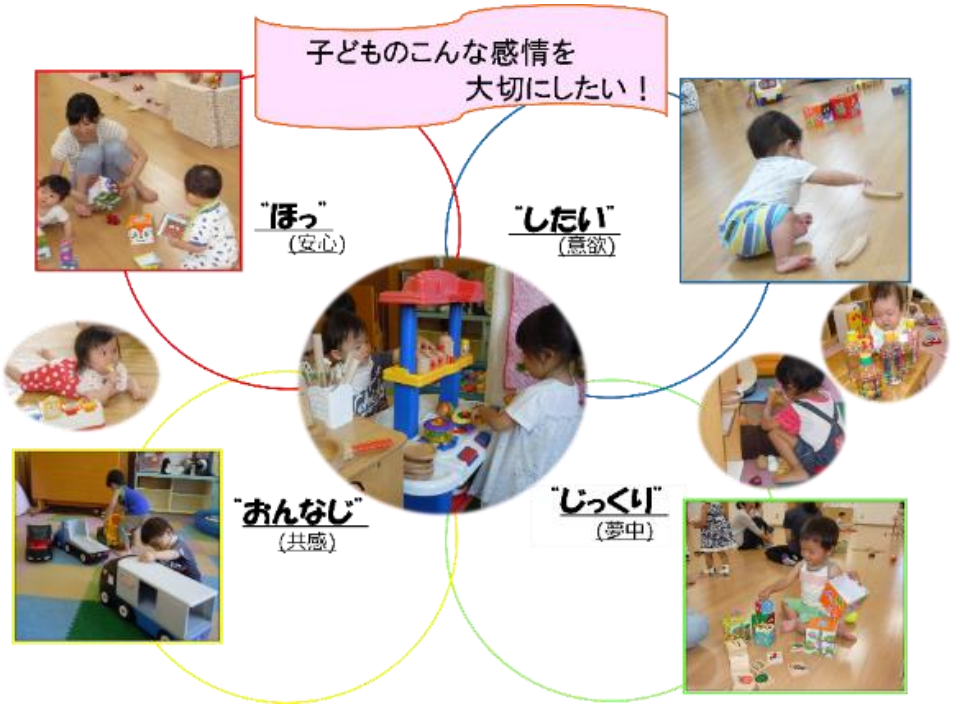
（1）0歳児のプログラム

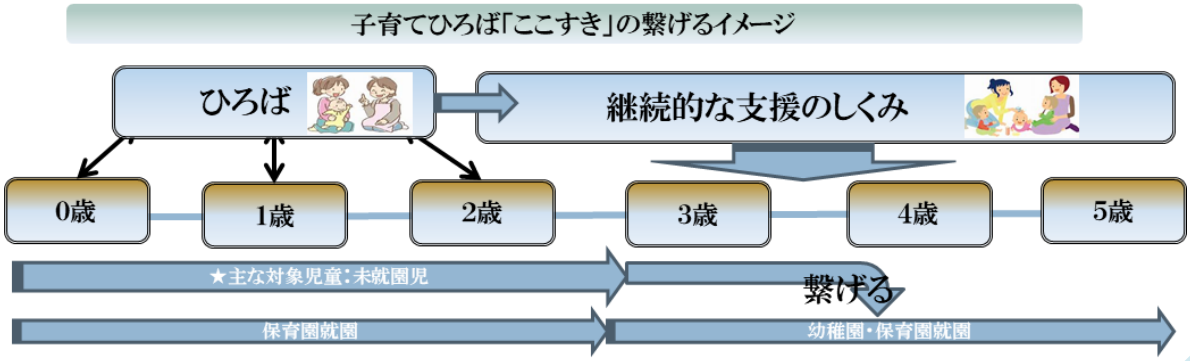
（2）外遊び・体験型のプログラム

（3）手作りおもちゃを通した親子の学び

（4）絵本を通して親子の学び

（5）リクエストの多い子育ての学び





２．あらゆる世代と子育て家庭が交流する支援の輪「つながるカフェ事業」と情報発信事業

■事業の目的：人と人との交流や支援を通して、子どもが豊に育つ学びの場と機会をつくります。また、これらを広く伝えるための情報発信を進めます。
■事業が果たす主な機能：①実践、③連携、④啓発・推進、⑤発達支援

◆センター事業での展開案

※ここ使用する「カフェ」とは、あらゆる世代の人々が集まり子育ての支援の輪を広げる場を、カフェに人が集うイメージから使用しています。

（１）気軽に立ち寄れ、親子の学びがつながる居場所づくりと継続する事業
（仮称「親子カフェ事業」：緩やかな仲間づくり）

子育て家庭に広く交流し学びと支え合いを広げる機会と場づくりを進めます。

また、同施設内の子ども家庭支援センター子育てひろばで行う事業とのつながりをもち、気軽に立ち寄れ、子育て家庭に寄り添った多様な支援を目指します。

（２）自然体験・芸術・文化の豊かな育ちに繋がる事業

市内の子育て支援施設との連携やあらゆる人材の力を生かしながら、市内全体で子育て子どもの育ちにとって大切な体験や発見に繋がるワークショップなどの取組と仕組みづくりを進めます。

（諸活動とコーディネート支援）※市の発達支援の取組みとの連携

子どもの成長を多くの支える仲間づくりの中で、子育て家庭が抱えきれない子どもの発達を支える取組を進めます。

例：音楽ムーブメントとわらべうたセラピーによるプログラム
親の当事者研究として、親自身が子育てについて自主的に参加し研究する（ノーバディズ・パーフェクト・プログラム）

（３）共に学び・支えるための情報発信　―情報誌や SNS 等の発信―

子育て家庭と様々な人の支え合いについての情報発信し、子育て支援や家庭での幼児教育力を高めるための橋渡しをします。

３．学びの支援の輪を広げる
研究・研修・講座・ワークッショップ事業

■事業の目的：子どもが豊に育つ幼児教育と子育てを支える人たちを育成し、学びの支援の輪を広げます。

■事業が果たす主な機能：②研究・研修、③連携、⑤発達支援

◆センター事業での展開案

（１）キャリアアップ研修を土台とした新しい時代の保育・幼児教育の研修

市内の幼稚園、認定こども園、保育園、子育て支援施設や子育て支援団体等の子どもと子育て家庭を支えるための研修を行います。

（２）子育て家庭を支える持続可能なマンパワー（共に学ぶ・支える人：コーディネーター）育成とワークッショップ

市内の子育て支援施設・団体に加え、様々な地域の人々が係り、地域の子育て家庭の支えに繋がる取組を進めます。

（３）幼児教育・幼保小連携等の研修、研究

市が進める幼児教育や幼保小連携に係る研修や研究の取組を進める機会と場を作り、幼稚園・保育園等と小学校関係者が互いに学び合うことで、市全体での仕組みづくりを進めます。

（４）職員の専門性を高める各種研修・研究や人材育成事業

子育て家庭を支える職員の専門性を高めるための、各種研修や研究の機会を作り、その育成に係る取組を進めます。

（５）新しい学びの場の拠点についての研究

幼児期以降も、全ての子どもたちが、個々にあった将来に大切な学びに向かっていけるよう地域の人材を生かした「新しい学びの場の拠点」について、関係機関と研究を進めます。

４．豊かな育ちの学びを進めるための
企業・地域団体とのコラボレーション支援

■事業の目的：子どもが豊かに育つ幼児教育と子育てを支える地域や企業とのコラボレーション支援の輪を広げます。
■事業が果たす主な機能：②研究・研修、③連携、④啓発・推進

◆センター事業での展開案

（１）遊具・おもちゃ・絵本を介した子どもの遊びの創造を広げる事業

子どもの発達環境にとって大切な遊具・おもちゃ・絵本などを子どもが触れ合う機会をつくる仕組みを企業や地域団体とのコラボレーションのもと進めます。

例：地域に係る専門家や企業など（アーティスト、有識者など）の展示コーナーの設置、シンポジウム、セッションなど

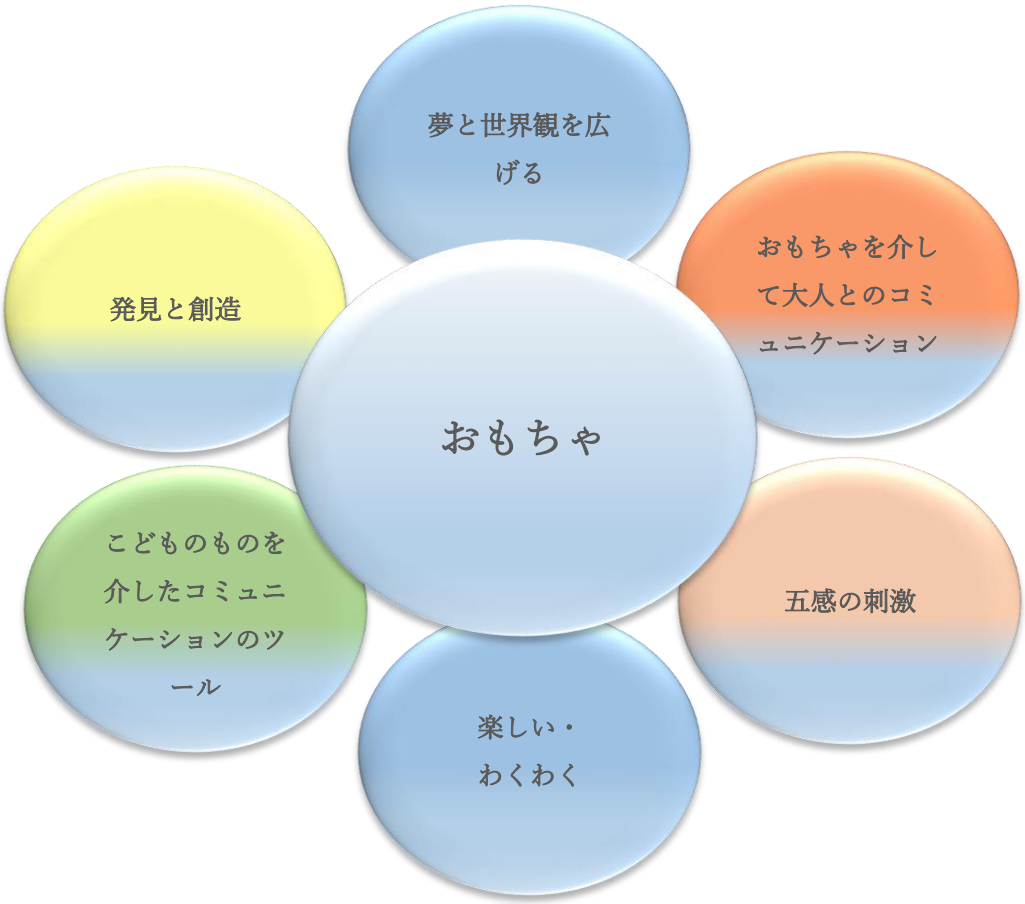
（２）遊びや学びの環境づくり事業（幼児教育センター施設環境以外も含む）

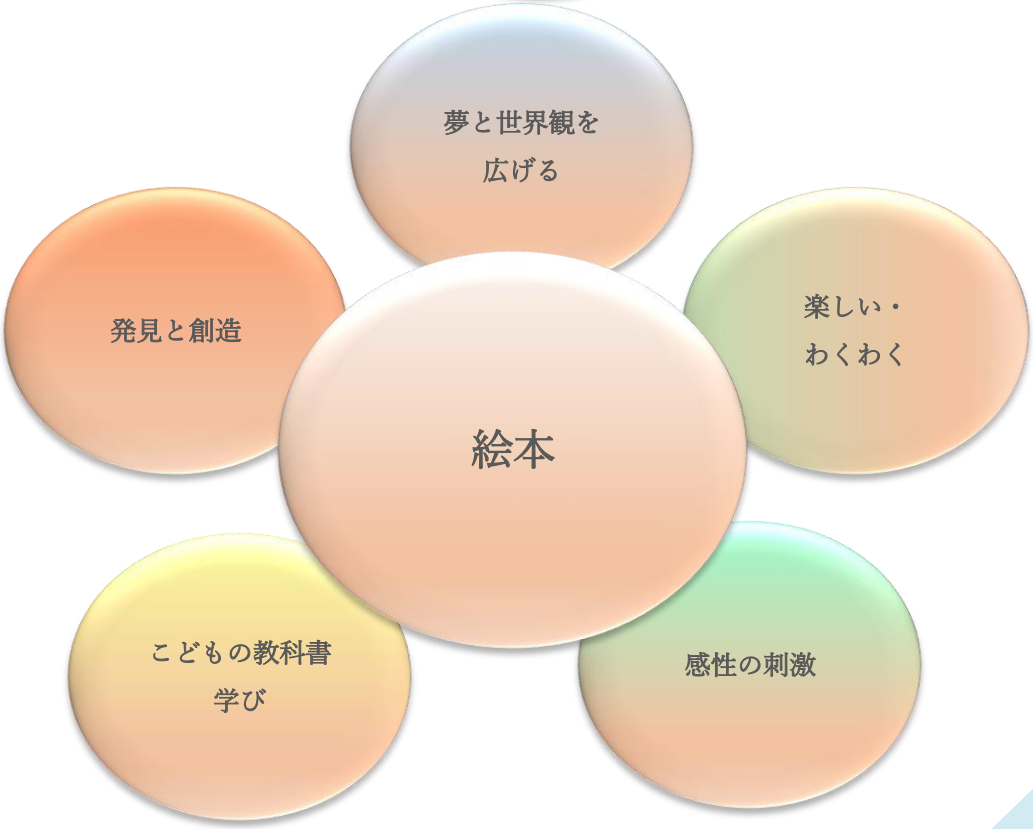
遊びや学びの環境づくりを地域や企業と共に取り組みます。

<おもちゃをテーマとする取組のキーワード>

○子どもがためす・感触…　　○ふわふわ⇒気持ちいい
○子どもがものと関わる・対話する　⇒他者と関わることが始まる
○子どもの出会いはものから始まる
○子どもはいろいろな発見をする。つまむ、ふる、たたく…
　⇒世界を広げていく　描いていく
○自己をもつことが大切　自分はすごい（体験・経験）
○夢中にさせるかたち　自分の力で変えられるもの知る
○子どもから指示されるもの
○地域で思い出に残っているもの
○何を経験させたいか　大切にしたいもの
○土地のメッセージ　切り株など　⇒　さくらの木
○自然のぬくもり　人と自然と繋がる　落ち着く場所　自然体
○シンボル　○アーティスト　音：音楽　○音・光・におい
○国立を模したもの

子どもの発達環境にとって大切なおもちゃ・絵本の視点イメージ





５．国立の子どもにとって必要な子育てや教育の新たな課題解決に積極的に取り組む

■事業の目的：国立の子どもにとって必要な子育て支援や保育・教育の課題解決において、幼児教育センターがその機能を果たす。
■事業が果たす主な機能：②研究・研修

◆方針

幼児教育センターの運営を進める過程において、社会情勢の変化や国立の子どもや子育て家庭が抱える新たな課題について、幼児教育センターが、その解決のため必要とする子育て支援や保育・教育の取り組みを研究し、必要とする取組を積極的に進めます。

（3）子ども家庭支援センターひろばなどの関係機関との連携

施設2階は、幼児教育センターと子ども家庭支援センターひろばが、こども縁側を介し一体的な子育て支援スペースとなっています。2つの施設のそれぞれの機能をより充実させるために、各事業展開の相乗効果が図れるよう連携します。

また、その他関係機関との連携のもと、事業を展開します。

◆国立市連携機関・事業

〇子育てひろば　子ども家庭支援センター

（月齢グループ・ピアママ活動・各種講座・各種交流会等）

〇市のカンガルーひろば、おはようコケッコー事業

〇市の子ども保健・発達支援組織

幼児教育センター事業（案）と子ども家庭支援センター事業との連携と業務区分について

	幼児教育センター事業	連携	子ども家庭支援センター　※市の事業検討案含む
1			**（1）総合相談事業**　※市との連携 18歳未満のお子さんとその家庭に関するあらゆる相談をお受けします。お子さん自身からの相談にも対応します。身近な子育ての悩みから虐待などの深刻なケースまで総合的に対応します。
2	**1．子育てと学びの輪を広げる「ここすきひろば（幼児教育ひろば）」事業** **◆センター事業での展開案** （1）0歳児のプログラム （2）外遊び・体験型のプログラム （3）手作りおもちゃを通した親子の学び （5）絵本を通して親子の学び （6）リクエストの多い子育ての学び		**（2）子育てひろば事業** 子育てのご家庭が気軽に集える場所を提供します。子育て中の親子が相互交流をしたりスタッフに気軽に相談することができます。また、様々な講座の開催や、情報誌の発行をします。①ヤクルト共同事業（ヤクルトミニお楽しみ会）、②抱っこひもミニ講座、③防災・安全ミニ講座、④助産師相談、⑤ひろばミニ説明会、子育て情報誌提供事業 **【矢川プラスでの拡充する事業提案】** 〇子育てひろば、ランチスペース等の交流スペースの常設 〇各種相談業務の充実（子育て相談、産後の健康相談、母乳相談等） 〇計測コーナーの常設
3	**2．あらゆる世代と子育て家庭が交流する支援の輪「つながるカフェ事業」と情報発信事業** （1）気軽に立ち寄れ、親子の学びがつながる居場所づくりと継続する事業（仮称「親子カフェ事業」：緩やかな仲間づくり）		
4	**2．あらゆる世代と子育て家庭が交流する支援の輪「つながるカフェ事業」と情報発信事業** （2）自然体験・芸術・文化の豊かな育ちに繋がる事業		
5	**2．あらゆる世代と子育て家庭が交流する支援の輪「つながるカフェ事業」と情報発信事業** （3）子どもの遊びと発達を支え合う仲間づくり事業 （諸活動とコーディネート支援）※市の発達支援の取組みとの連携		
6	**2．あらゆる世代と子育て家庭が交流する支援の輪「つながるカフェ事業」と情報発信事業** （4）共に学び・支えるための情報発信ー情報誌やSNS等の発信ー		
7	**3．学びの支援の輪を広げる研究・研修・講座・ワークッショップ事業** （1）キャリアアップ研修を土台とした新しい時代の保育・幼児教育の研修	1、2（1）-（2）と関連	**（3）子育て講座及び子育てグループ育成・支援事業** 地域における子育てサークル、同月齢児のグループ等の活動支援やボランティアの育成を行います。また、子どもの年齢別や地域向けの講座を開催します。 **【講座・講演会】**①子育て講座・子育て講演会（3講座）、②保育付講座（6講座）、③パパ講座（2講座）、 **【子育てグループの育成・支援】**①地域での子育てひろば（3回）、②双子交流会（2回）、③月齢グループ（5～6か月の子どもと保護者の月齢毎のグループ作りと活動支援）、④地域グループ（自主活動グループへの支援、ピュアママ登録者の支援活動） **【矢川プラスで拡充する事業提案】** 〇子どもの対象年齢やテーマ毎の子育て講座、講演会の開催 〇離乳食や乳児食を作る講座や試食会（商店街との連携） 〇講座時等の一時預かり事業 〇ミニコンサート、おはなし会、人形劇、読み聞かせ活動 〇屋外を活用したあそび場事業（外遊びを楽しむ会、夏休み遊びイベント、ミニプール、シャボン玉） 〇産後支援事業（すくすくひろば、産後体操） 〇各種研修事業（関係機関向け、相談者向け） 〇子育て関係機関の連携会議
8	**3．学びの支援の輪を広げる研究・研修・講座・ワークッショップ事業** （2）子育て家庭を支える持続可能なマンパワー（共に学ぶ・支える人：コーディネーター）育成とワークッショップ		
9	**3．学び支援の輪を広げる研究・研修・講座・ワークッショップ事業** （3）幼児教育・幼保小連携等の研修、研究		
10	**3．学び支援の輪を広げる研究・研修・講座・ワークッショップ事業** （4）職員の専門性を高める各種研修・研究や人材確保・育成事業		
11	**4．豊かな育ちの学びを進めるための企業・地域団体とのコラボレーション支援** （1）遊具・おもちゃ・絵本を介した子どもの遊びの創造を広げる事業		
12	**4．豊かな育ちの学びを進めるための企業・地域団体とのコラボレーション支援** （2）遊びや学びの環境づくり事業（幼児教育センター施設環境以外も含む）		

（４）矢川プラス全体との連携

幼児教育センターが「多世代子育てステーション機能」をもち、矢川プラス管理運営計画に沿った市民参画の手法と関連付けて、未来につなぐ子育ての支え合いを進めます。

また、隣接する矢川保育園の保育・幼児教育の取組と連携をとり、地域の支援や協働事業を進めます。

（５）施設利用とプログラムのタイムスケジュール（例）

施設利用とプログラムについては、施設利用形態（時間）や矢川プラス全体の運営計画等が確定した後に検討を進めるものとします。ここでは、時間枠と事業プログラムのイメージを示しました。

※スペース１・２は、可動間仕切りにより分けた場合の利用形態となります。

幼児教育センター施設（スペース１）の平日のプログラム				
午前	お昼	午後	夕方	夜
①ここすきひろば事業	ランチタイム	①自由ひろば ②つながるカフェ事業 「（仮称）親子カフェ事業」 ③ワークショップ 「キャリアアップを土台とした新しい時代の保育・幼児教育研修」	①サークル活動	研修

幼児教育センター施設（スペース２）の平日のプログラム				
午前	お昼	午後	夕方	夜
①ここすきひろば事業 スペース１利用と同じ	ランチタイム	①自由ひろば スペース１利用と同じ ②つながるカフェ事業 スペース１利用と同じ ③ワークショップ 「幼児教育・幼保小連携等の研修・研究」	①サークル活動	研修 講座

幼児教育センター施設（スペース１）の土・日のプログラム				
午前	お昼	午後	夕方	夜
①自由ひろば ②つながるカフェ事業 「子どもの遊びと発達を支え合う仲間づくり事業」	ランチタイム	①自由ひろば ②つながるカフェ事業 ③ワークショップ 「子育て家庭を支える持続可能なマンパワー育成とワークショップ」	①サークル活動	研修講座

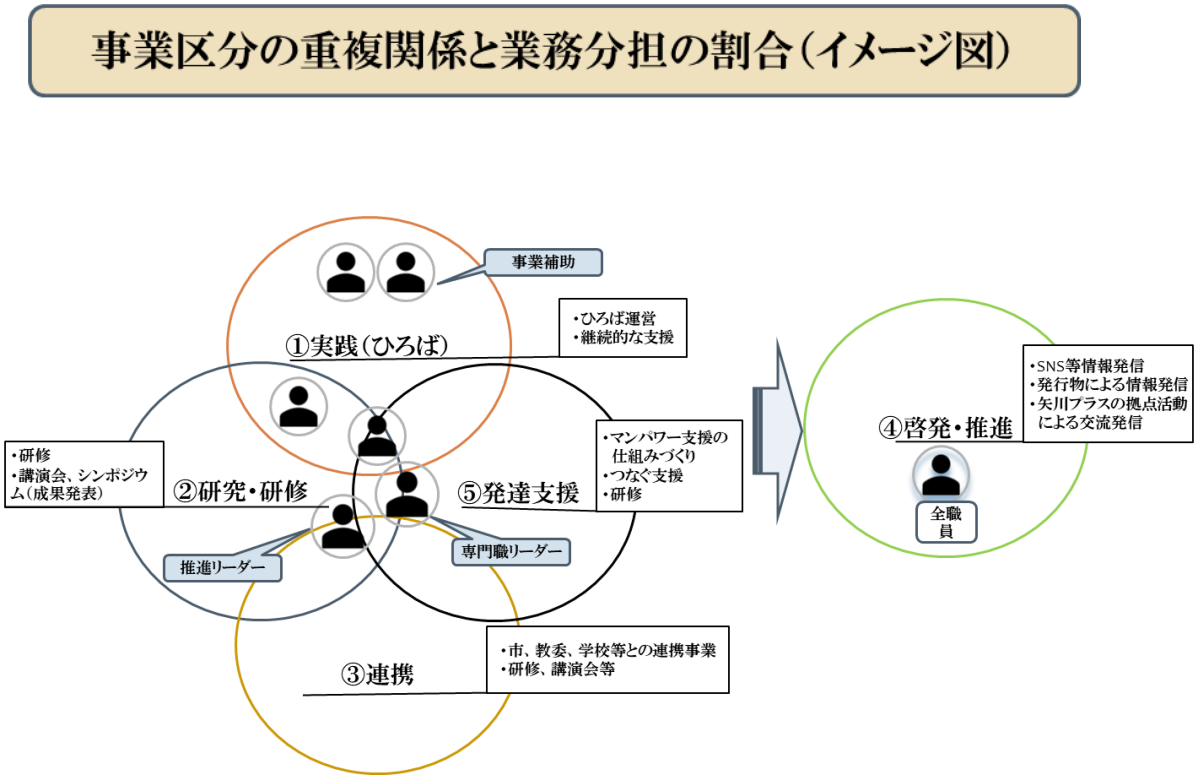
幼児教育センター施設（スペース２）の土・日のプログラム				
午前	お昼	午後	夕方	夜
①自由ひろば スペース１利用と同じ ②つながるカフェ事業 スペース１利用と同じ	ランチタイム	①自由ひろば スペース１利用と同じ ②つながるカフェ事業 スペース１利用と同じ	サークル活動	研修講座

※幼児教育センター以外の施設とは、矢川プラス内の多目的ルーム、ホール、とおり土間、多目的ひろばなどの利用が考えられます。

幼児教育センター以外の施設を利用した平日のプログラム				
午前	お昼	午後	夕方	夜
①つながるカフェ事業 「気軽に立ち寄れ、親子の学びがつながる居場所づくりを継続する事業」	左記の事業	①豊かな育ちの学びを進めるための企業・地域団体とのコラボレーション支援 「遊具・おもちゃ、絵本を介した子どもの創造を広げる事業」	左記の事業	

幼児教育センター以外の施設を利用した土・日のプログラム				
午前	お昼	午後	夕方	夜
①つながるカフェ事業 「自然体験・芸術・文化の豊かな育ちに繋がる事業」	左記の事業	①豊かな育ちの学びを進めるための企業・地域団体とのコラボレーション支援 「遊びや学びの環境づくり事業」	左記の事業	

参考資料１



※求められる専門分野：幼児教育、保育、発達心理等

参考資料２

子育てひろば実践の視点と幼児教育の発信（「ここすきパンフレット」より抜粋）

☆子どもの育ちを考える☆ その３

0・1・2歳児の毎日　～ あそび ～編

自分が「やってみたい」と思うことをする。それが**主体的な活動**です。いつも見守ってくれる人、心地よい場所が主体的な活動の拠点になります。あそびは、成長していくための大切な役割を担っています。

主体的な活動って？

ドキドキ・わくわく、をたくさん経験しよう！
「はじめてやってみた」「これ、楽しい」「できた！うれしいな」「おもしろい」「なんでこうなったのか」

子育てひろば実践の振り返り（「ここすきパンフレット」より抜粋）

☆子どもの育ちを考える☆ その４

0.1.2.歳児の毎日　「ここすき！」

ここすき！の広場では個別に一人ひとりのシールがあります。バッジや連絡ノート、自分の物を出し入れするロッカーに、貼ってあります。自分の居場所があると安心でき、安心すると活動範囲も広がります。また、自分でやろうと思いできたことは自信がもて、さらにほめられることで次への意欲につながります。

家庭には居なかった“友だち”という存在があらわれ気になります。友達の持っている姿に興味関心をもって、自分もやってみたいと挑戦して、できた楽しさやうまくできなかったくやしさなどいろいろな感情が芽生えます。

幼児教育センター運営事業検討報告書

発行　　2022 年 3 月
　　社会福祉法人くにたち子どもの夢・未来事業団
住　所　〒186-0003　国立市富士見台２―４７－１（国立市市役所内）
　　社会福祉法人くにたち子どもの夢・未来事業団　℡042－576-2111